



水沢Z分団宇宙探検ラリー

2010年6月6日(日)

(活動の概要)

●宇宙探検ラリーとは

宇宙空間に見立てた自然豊かな天文台構内の中で、Z分団ゆかりの木村博士に親しみながら宇宙学習し、地図と方位磁石と歩測により、隠された特設ポイントを探しながらゴールを目指す「宇宙探検ゲーム」です。

宇宙教育を目的とした野外グループ活動により、これから始まる宇宙少年団活動に必要なグループワークを習得させ、団員相互が友達になる事を目的とします。

●GWT (グループワークトレーニング) とは

「対人関係」や「創造力」を、講義による「知識」として獲得するのではなく、グループの相互作用を利用して体験的に学ばせることで、メンバーとグループの成長を計るものです。リーダーシップやチームワークを、遊びを通して学ばせます。宇宙探検ラリーはグループワークトレーニングにより行います。

●クラス分けと、グループ構成について

水沢Z分団の団員構成は、幼稚園児から中学生まで幅があります。

集団活動を通じて創造性を高めるためには、メンバーの相互作用による磨き合いが不可欠であることから、それぞれの体力、能力に合ったクラス分けをする必要があります。

今回は低学年クラス(幼稚園～小学3年)と高学年クラス(小学4年～)に分けて行ないます。

野外活動時には、低学年クラスには保護者も一緒に入ってもらいます。

高学年クラスは構成団員だけのグループ活動とします。

メンバーの構成人数は5名とし、各グループが年齢的にバランスよく構成されるようにします。

リーダーにはGWT活動の中で最年長者が自然発生的に決まるように進めていきます。

低学年クラスは(団員3～5名+保護者)とします。

●遊学館教室での活動と太陽系体感コースについて

宇宙遊学館の教室では、導入のゲームなどを通してグループ活動に展開して行きます。

メンバーの交流でグループの絆を深め、さらに方位磁石の使い方や地図の読み方の基本を学びます。

屋外に出て、「けやき会館」付近から直線100mに特設された「太陽系体感コース」で、歩測学習をします。ここでは全リーダーがそれぞれのグループに太陽系ガイドと歩測指導、方位磁石の実践指導を行います。

●宇宙探検ラリーについて

これは「宇宙で発見された新エネルギー(K)を求めて探検の旅に出る」という設定で、地図と方位磁石、1円玉、宇宙船シート、発泡スチロール塊などのアイテムを持って出発し、グループワークにより隠されたポイントを探し出していく「野外オリジナルゲーム」です。---(K)は木村博士から命名しました。---

宇宙探検ラリーのスタート地点は、天文台の中央にある「2等水準点」です。

各チームはそれぞれ与えられた「ミッション(司令)」により一斉にスタートします。

10グループが同時にスタートしますが、司令された第1ポイントは各グループ違う場所なので、四方八方に散らばっていきます。第1ポイントを探すとそこにはエネルギー(K)のスタンプがあります。そして最初の10箇所のポイントが記された「マスターマップ」があります。マスターマップから自分のマップにポイントを写して、メンバーが相談し戦略を立てて探検の旅に出発します。各ポイントのエネルギー(K)の大きさは、そのポイントに行かなければ分かりません。注意しなければならないのは、宇宙船に積めるエネルギー(K)は、「最大999」までで、1000を越えると飛行不能になるというルールがあることです。簡単な大きなポイントだけを無計画にスタンプしていくと飛行不能となり失格になるので、メンバーで作戦を立てながら進めなければいけません。

エネルギー(K)の大きさは500・300・200・100・50・30・20・10・5・3・2・1の12種類で、設置ポストの数は30個です。ある特定のポイントには、更に隠されたポイントの場所が記されているなど、深みのある構成になっているので、他のグループの行動が見えても、公平な競技が出来るように工夫されています。

限られた時間内で最大エネルギーを集めるには、メンバーの相互協力と戦略が不可欠となります。

また、「エネルギー探索ポイント」の他に、水ロケットの「テーマポイント」などがあります。ここではロケット発射台を組み立てて水ロケットを飛ばし、水ロケットの仕組みなど体験するなど創造性開発をテーマとします。

そして、開講式のデモの時に塀を越えて飛んでしまった水ロケットコースで、「発射台から塀(宇宙の果て)まで」を歩測するなどの課題が組み込まれています。

ラリーは90分タイムアップで終了になります。ゴールポイントは木村博士の銅像で、一斉にゴールとなります。

1位チームには記念メダルが用意されています。閉会式では今日の振り返りがあります。